



株式会社エネルギーギャップ°

会社案内

ENERGY GAP

2023年版 Rev02

エネルギーギャップについて

エネルギーギャップの誕生は2014年。

「未来から今を見る」バックカスティング思考で、長期にわたって社会貢献できるような本質的な環境事業を生み出す。

私たちエネルギーギャップは、再生可能エネルギーの“トータルサプライヤー”として常にオリジナリティの高い新しい商品をグローバル展開してまいります。

信頼の証“ジャパン・クオリティ”にこだわり、再生可能エネルギーのさらなる利用の普及と促進を目指します。

さらに太陽光発電をはじめとした次世代のエネルギーは、環境の未来への配慮だけでなく、その普及は産業と雇用の創出、経済の活性化といった様々な恩恵をもたらします。私たちエネルギーギャップは、“バックカスティング”の思考で、現状の環境ビジネスを分析します。

子供たちの未来へ向けての理想的なエネルギーを構想し、今ある能力と資源をフル活用して最適な製品とサービスをご提供し続けます。「理想の世界」と「実存の世界」のギャップを見だし、常にイノベーションを生み出してまいります。



弊社は、ISO9001：2015（品質マネジメントシステム）及びISO14001：2015（環境マネジメントシステム）の認証を取得し、高い品質の維持・向上、環境に配慮した事業活動に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

一期一会



代表取締役社長 郭海彬

【一期一会】一生涯にただ一度会うかどうかかわからぬほどの縁。出会いを大切にすることのたとえ。人のぬくもりを感じる、感謝する心を育む、私の大切にしている言葉です。原材料から製品システム開発やシステム構築運用まで、約15年の業界経験を活かし、「理想」と「ありそう」のギャップを見だし、より良質な製品とサービスを提供し続けます。

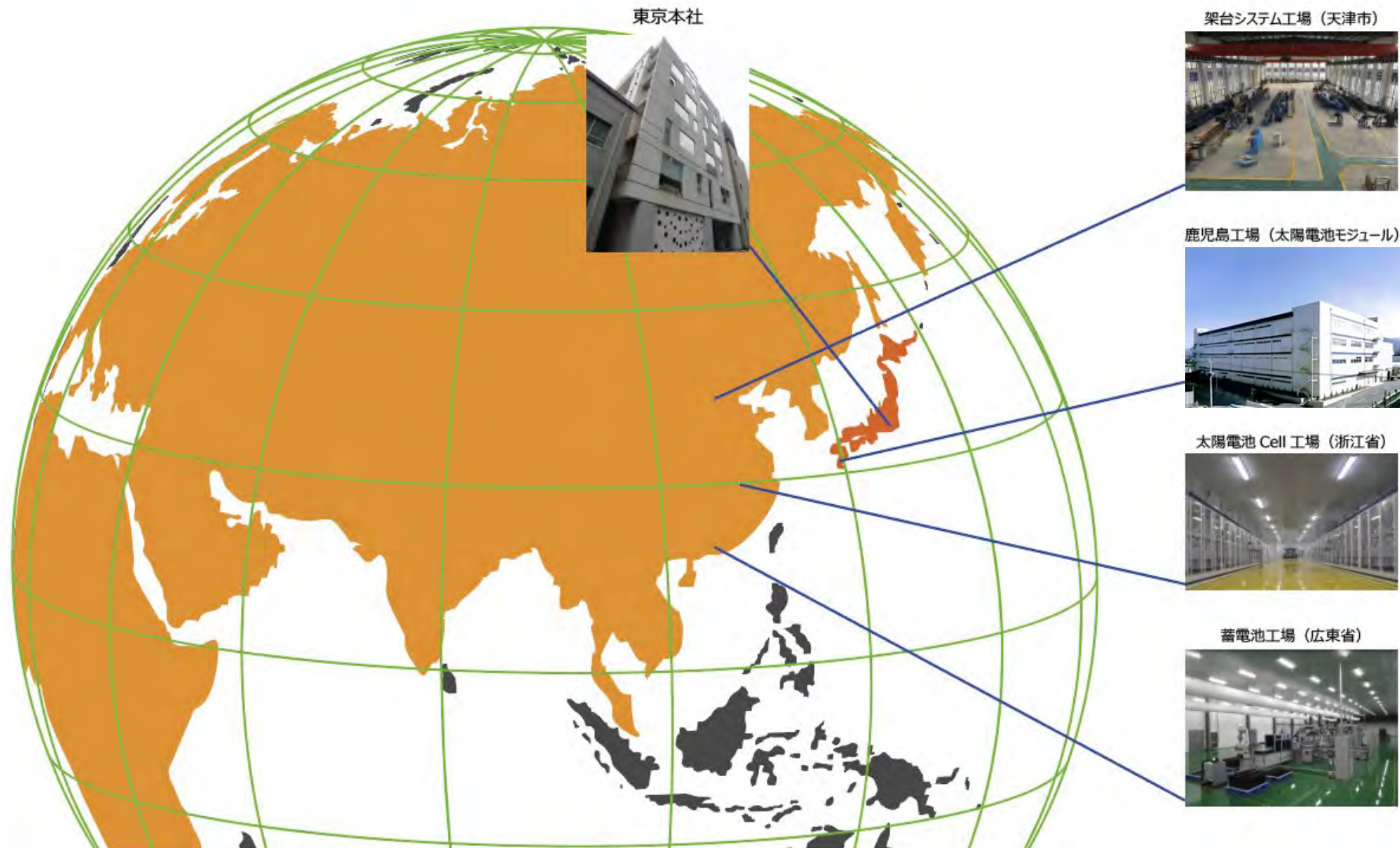
会社概要

会社名	株式会社エネルギーギャップ
代表	郭 海彬（カク カイヒン）
設立	2014年10月1日
資本金	3億円
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-2 KR Ginza II 7階
工場	〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2080-3





事業拠点





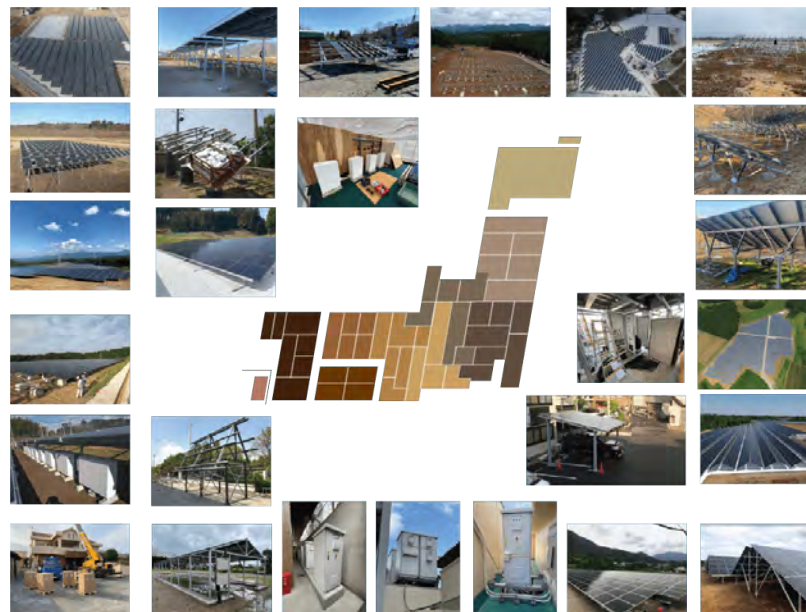
トータルエネルギーソリューションで、持続可能な社会の未来を描く。

太陽電池モジュール事業

2017年に鹿児島県出水市に太陽電池モジュール工場を開設しました。独自の技術開発力に加え、生産工程の徹底したオートメーション化によってモジュール1枚1枚の品質は高水準を維持しつつ、量産化に実現しました。

メガソーラーシステム事業

EGのメガソーラー設計は開発設計・生産供給・経済産業省への届出の対応サポートまで、一連のプロセスを一貫してお引き受けすることで、さまざまな用途や需要に柔軟にお応えし、施工性に優れ、コストパフォーマンスに優れた商材をお客様に提供しています。



蓄電池システム事業

EGのハイブリッド蓄電池システムは一般住宅から産業利用まで、幅広い分野で活用できる。電池ユニットの生産は完全にオートメーション化、製品の構成にもすべてall in oneのユニット化設計によって高品質かつ高い安全性能を実現しました。

省エネソリューション事業

RE100やSDGsに向け、自家消費、ピークカット、VPP、DR（ディマンド・リスポンス）、BCP、PPA、蓄電池併設型太陽光発電システムの開発設計、生産供給、メンテ運用まで一貫サービスを提供しています。

[illegible]



EGで製造された品質・信頼性の高い製品を某大手ソーラー企業と提携し、国内の住宅大手メーカーに販売開始、直接工場内で取付方式にて、国内の住宅屋根サイズにフィットし、かつ高い搭載容量も確保できる太陽光発電システムの導入を実現しました。EGの製品は国内住宅市場にて製品標準化し、海外メーカーが真似できないような製品づくりを行っています。

蓄電池システム事業

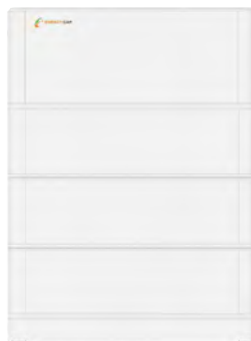
エネルギーギャップのハイブリッド蓄電池システムは一般住宅から産業利用まで、幅広い分野で活用できる最新鋭のLiB（リチウムイオンバッテリー）です。世界TOPクラスのLG社製電池セルを使用し、電池ユニットの生産は完全にオートメーション化、製品の構成にもすべてall in oneのユニット化設計によって高品質かつ高い安全性能を実現しました。

- ピークカット/シフト運転により電力需要の平準化を図ることができます。
- 夜間電力の利用及び契約電力超過を抑制することによる電気料金削減が期待できます。
- 停電時自立運転に切り替えることで特定の負荷機器に電力を供給できます。
- 平常時は発電電力の余剰分を充電することで電力の有効利用ができます。
- 停電時にも発電電力で充電が可能です。

低圧48V
蓄電池システム



住宅向け
蓄電池システム



産業向け
蓄電池システム



PPA事業【自家消費兼BCP対策】エネルギーの共有化まで



横浜市記者発表資料

令和3年3月17日
温暖化対策統括本部プロジェクト推進課
教育委員会事務局総務課

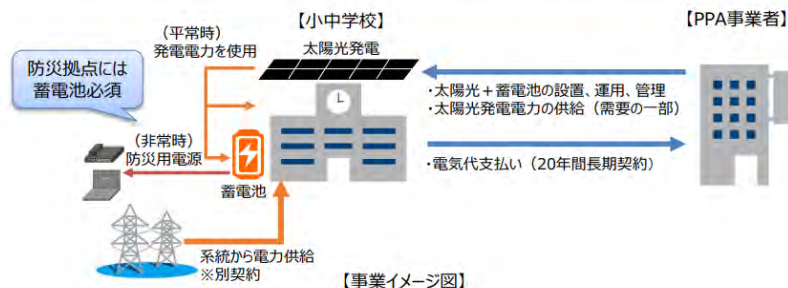
小中学校 65 校への再生可能エネルギー等導入事業の
実施事業者を公募型プロポーザルで選定しました

横浜市の取組



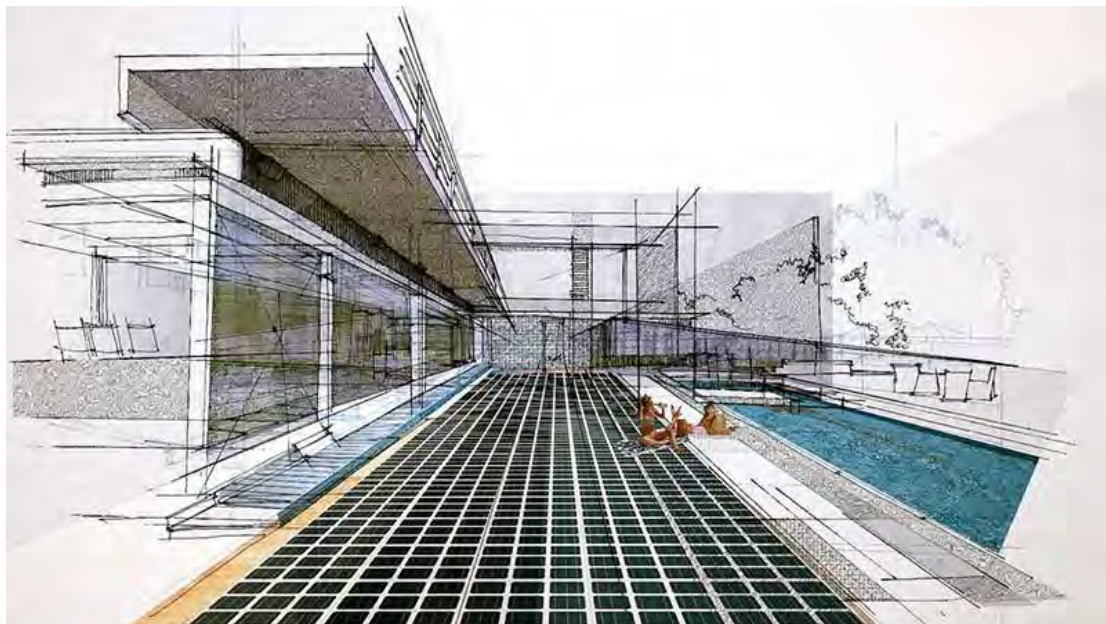
◆横浜市が取り組むPPA（屋根貸し太陽光発電自家消費）事業

- PPA（Power Purchase Agreement：電力購入契約）とは、設備設置事業者（PPA事業者）が施設に太陽光発電設備を設置し、施設側は設備で発電した電気を購入する契約のこと。
- 屋根貸し自家消費型モデルや第三者所有モデルとも呼ばれており、施設側は設備を所有しないため、初期費用の負担や設備の維持管理をすることなく、再生可能エネルギーの電気を使用することができる。
- 市内小中学校65校を対象に今年度から来年度にかけて実施

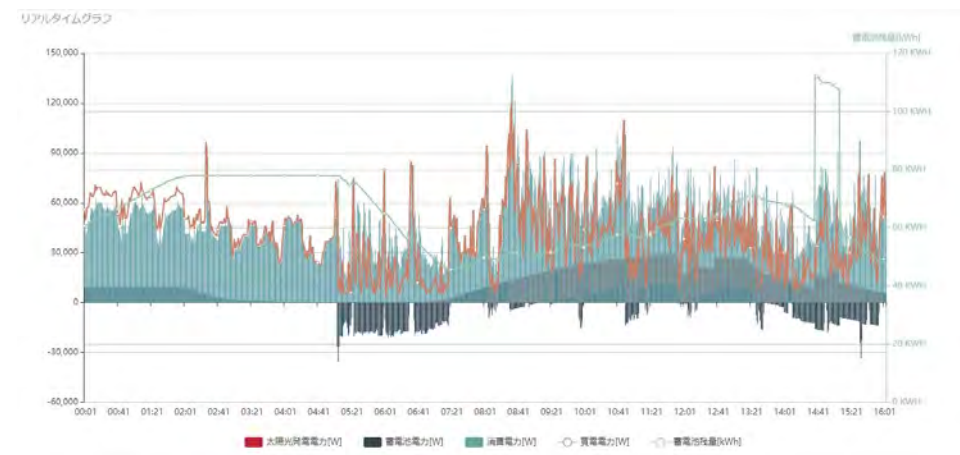
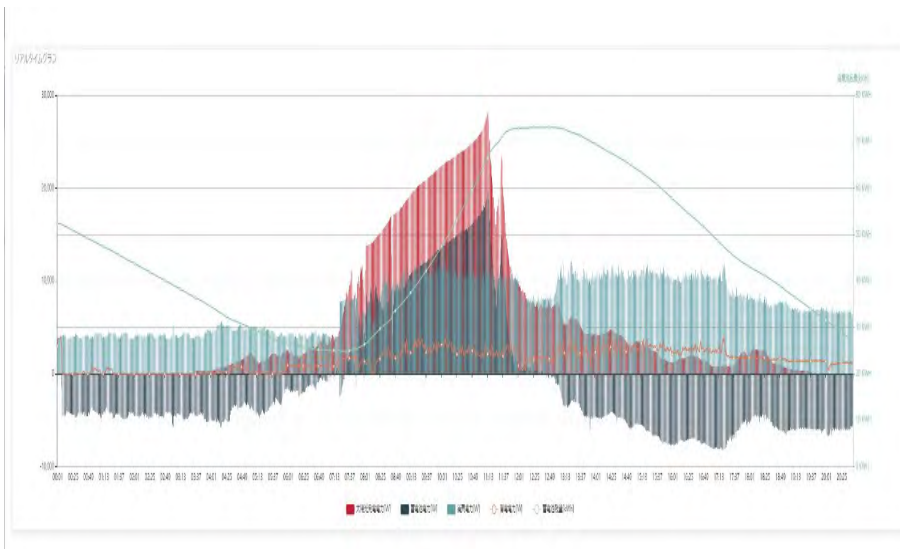


EGの発電システムは令和3年横浜市65ヶ所の再生可能エネルギー導入プロジェクトに選定されました。
小中学校に太陽光及び蓄電池システムを導入して、自家消費兼BCP対策を実現。
更に余剰発電は学校間でのエネルギー供給ができ、遠隔監視/システム運用まで一貫サービスを提供いたします。





エネルギーギャップは再生可能エネルギーの開発設計、生産供給だけではなく、システム全体の使用環境の快適性や安全性を保ちながら、いかに運営管理段階におけるエネルギー消費を最小化するか、CO₂排出を削減するか、という課題に対し、エネルギー診断から省エネや創エネ設備の導入工事、維持管理といった各段階における最適なメンテ運用まで一貫サービスを提供しています。

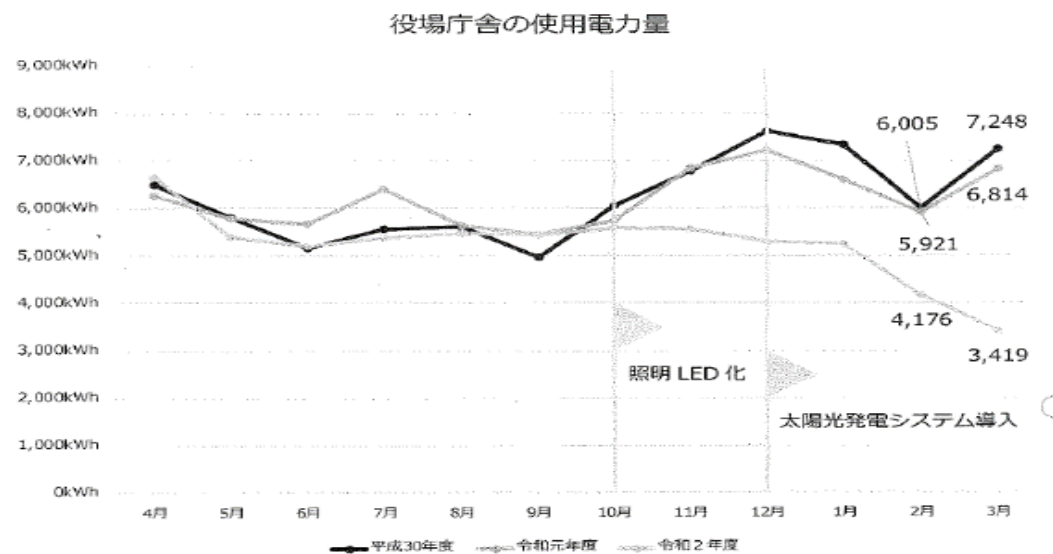


[運用管理システム](#)
[18.179.95.240](#)

【自家消費兼BCP対策】SDGsを目指す



北海道の中頓別市役所案件、2018年に太陽光発電及び節電設備を導入し、2019年の役所施設全体の自給自足能力は60%を達成しました。2020年に追加で蓄電池システムを導入し、約90%のエネルギーを自給自足で実現、かつ蓄電池システムの導入により、災害時のBCP対策も完備しました。

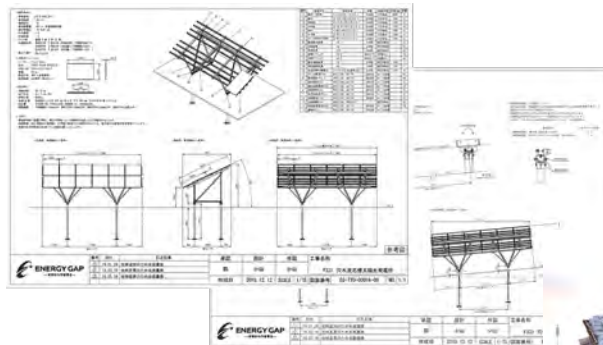


自家消費兼BCP対策、最大限に再生可能エネルギーを
利用できるように全国展開。



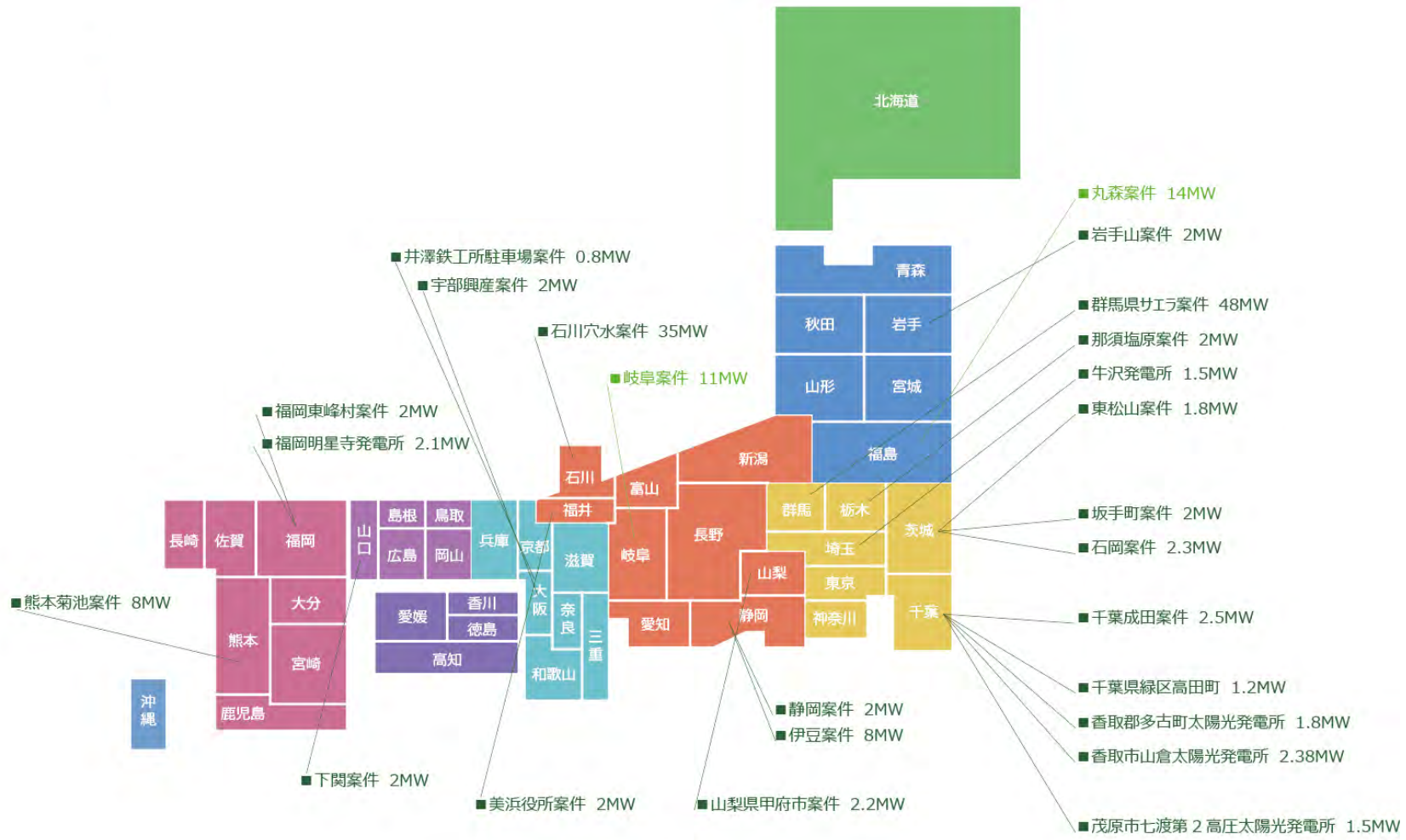
長期的に安全な支えをお届けするために

エネルギーギャップのメガソーラーシステムは高圧発電所からメガソーラー案件までトータルに対応いたします。
製品開発設計・生産供給・経済産業省様への届出の対応サポートまで、一連のプロセスを一貫してお引き受けすることで、さまざまな用途や需要に柔軟にお応えし、施工性に優れ、コストパフォーマンスに優れた商材をお客様に提供しています。





メガソーラーシステム事業 納入実績



累計実績：約500MW
設計実績：約700MW

未着工：約1.7GW
2025年まで



エネルギーギャップは「持続可能な世界を実現する」ことを目指し、サステナブル経営を推し進めています。



徳島大学の学生たちにソーラーカープロジェクトを技術、製品を支援しております。フレームやボディ、制御装置等を設計から製作まで学生と交流しながら行っています。環境とエネルギーの意識をしながら学生らしい柔軟な発想で独自性の高いソーラーカー製作に誠心誠意励んでいます。



脱炭素経営による企業価値向上促進プログラム
脱炭素経営促進ネットワークの支援会員として参画しました。脱炭素経営促進ネットワーク（以下、ネットワークという）は、パリ協定に整合する目標設定を検討する企業、目標設定を行った企業、目標達成のためのソリューションを提供する事業者の間でのコミュニケーションを活発化させ、SBT（Science Based Targets）に取り組む企業を増加させるとともに、脱炭素経済と企業の成長を推進することを目的とする。
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html



【COOLCHOICE】に参加いたしました。脱炭素社会の実現には、一人ひとりのライフスタイルの転換が重要です。できることから、「ゼロカーボンアクション」に取り組んでいきましょう。「COOL CHOICE」は、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという取組です。



ENERGY GAP

～ 未来から今を見る～

株式会社エネルギーギャップ

<https://www.energygap-jp.com/>

ENERGY GAP